

## UNIVER-CITY 柳ヶ瀬



## 岐阜市街地の新たな様相

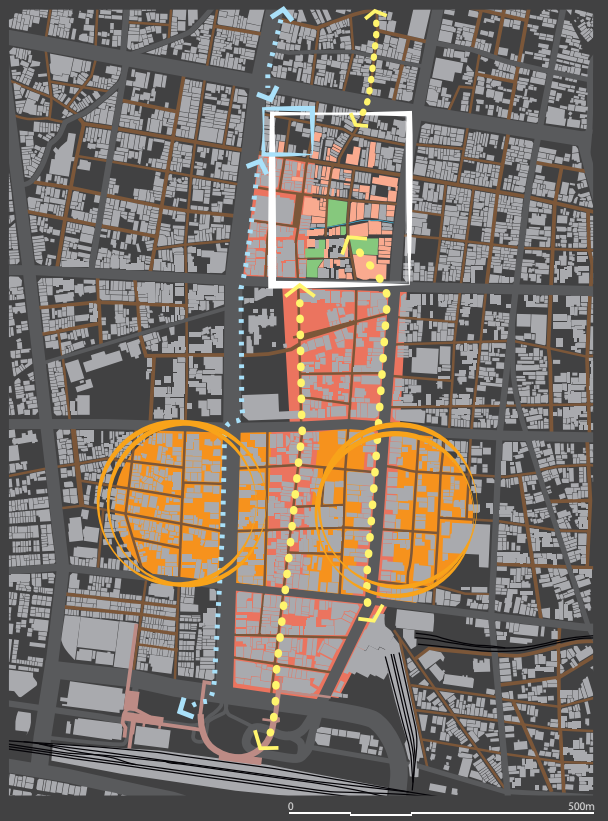
大学関連施設の配置される「長良橋通・金華橋通・若宮町通」徹明通に開かれた中に、岐阜大学の教育研究施設が配置される。

学生の主要動線  
JR岐阜駅からは玉宮通を、名府駅からは長良橋通を経由する司町のきふメディアコスモスカ近距離になり往来が盛んになる

自転車専用道と駐輪場  
岐阜大学柳ヶ瀬キャンパスから柳ヶ瀬および岐阜駅に至る自転車専用道を建設し、エコで快適な移動可能にする。駐輪場は柳ヶ瀬通・金華橋通のなす区画に市営の駐輪場を設ける。

商業重点近隣  
玉宮通を軸として、増加する学習需要に対する商店を展開する近隣地区。

賃貸住宅重点近隣  
柳ヶ瀬地区と岐阜駅の各種アクセス至便の場所に、賃貸住宅（注学生下宿）を展開することを見込む近隣地区。



## 街に散らばる大学の教室

市街地の核となるモノとして岐阜大学を埋め込む。

岐阜大学としては、市街地を教育現場することで、旧帝大などとは異なり、地域に根差した産業や人材を育成するような真に地方大学としての特徴を出すことができ、市街地としては、学生の生活が定着することで活気を取り戻すことができる。

従来のような囲われた大学施設を開発するのではなく、カルチュアタンやポローニャの大学のように、街並みの中に大学施設を分散させる。講義室・演習室・ミーティングルームを既存の建物や空きフロアへ配置して、中心市街地の積極的な用途混成を狙う。

街の空間構成には、人の居場所・交流の場所を創出するが、基本構成は現状のものを使用する。大学施設が分散したテナントとして積極的に街に展開。学生と地域住民のコミュニティ形成など、内発的なまちづくりが期待できる。

## 大学と街の機能をもとに高める方法

## 現実的な移行プランと基盤整備

1. 岐阜大学の講義は、原則として柳ヶ瀬の教室を使用。
2. 岐阜大学と柳ヶ瀬の間に自転車専用道を公共事業により建設。柳ヶ瀬北西部に市営の駐輪場を設置する。
3. 岐阜市は、地区内に存在する大型店舗ビルを整理してスクエアを建設したり、民間デベロッパーを使って大学地区南東のビル下層を吹抜けにしてエントランスの複合施設を建設する（既存建物の改修）など、大きな空間変更を実施する。

## 教育施設の細かな分散一すべての主体が勝つ方法

区画内の家主から可能な限り大学の教室スペースを賃貸する。20年間使用を条件に、大学は賃貸する教室を改装して使用。

- ・ 学生生活の場が柳ヶ瀬に集中する。
- ・ 店舗などへの来客効果が家主へのメリットになる。
- ・ 教育経費として大学はこれを賄うことができる。

## 独自の事業財源の創出

東海環状自動車道の開通によって利便性を増す岐阜大学柳ヶ瀬キャンパスの余る土地を、企業などに販売あるいは賃貸して、大学施設建設の財源とする。

## 本提案の主なメニュー

1. 岐阜大学の教室・演習室・ミーティングルームを市街地の建築物の中へ、部屋単位で移設する（賃貸契約とする）。
2. アーケード街路網は現状を維持して車両の通過交通を排除する。歩行者の経路を確保して区画内の移動を融通する。
3. 学生の居場所（市民の居場所でもある）を積極的に確保するため、市街地の内部に小規模な緑地・スクエアを建設。

## 上記に従属するその他の施策

- a. 岐阜大学カリキュラムを調整し、原則柳ヶ瀬で実施する。
- b. 分散した教室を効率よく案内する ICT の整備を行う。
- c. 柳ヶ瀬と柳ヶ瀬の間のアクセスを容易にする。

